

富岡地区円卓会議

自分ごとで考える“地域の居場所づくり”

第1～3回提案 中間とりまとめ

■ INDEX

I 私たちの考える「地域の居場所づくり」

- 1 これからの「居場所づくり」
- 2 “孤立”を見つける・未然に防ぐ
- 3 “居場所”を知る・知らせる

II さまざまな人に寄り添った居場所づくり

- 1 高齢者
- 2 子ども・子育て
- 3 障がい者とその家族
- 4 若者・単身

III 「居場所づくり」から見えた、これからの地域づくりに必要なこと

「地域活動」に対する過剰な義務感・やらされ感を取り除きたい

I 私たちの考える「地域の居場所づくり」

子どもからお年寄り、学校に通っている人、仕事をしている人、子育てをしている人、障がいを抱えている人、日々楽しく生きている人、悩みを抱えている人、…など、色々な人が私たちと共にこの地域で暮らしています。

色々な人たちが、互いに壁を作らずに過ごせる”居場所”をつくろうとしたとき、どんな課題があつて、それを乗り越えるために私たちに何ができるかを話し合いました。

ここでは、私たちが話し合いの中で見つけた、「地域の居場所づくり」に関する課題と、改善に向けた基本となる考え方を記します。

1

これからの「居場所づくり」

- ▶ すでにある「ふれあいの居場所」や、新たに居場所にできそうな場所をつかい、多世代が集まって相互に見守りあう環境をつくる

2

“孤立”を見つける・未然に防ぐ

- ▶ 今より地域のコミュニケーションを活発にして「居場所のない人」をすぐに見つけたり、未然に防げる地域にする

3

“居場所”を知る・知らせる

- ▶ “居場所”の存在を広く伝えて、みんなが居場所を見つけやすい・調べやすい環境をつくっていく

私たちの 居場所づくり 1

【これからの居場所づくりの基本】

今ある居場所は活用しきれていない、まだまだ居場所が足りない

▶すでにある「ふれあいの居場所」や、新たに居場所にできそうな場所をつかい、多世代が集まって相互に見守りあう環境をつくる

- ◎ 自分が楽しいと思える場所、自分が誰かの役に立てる場所、自分が休まれる場所ならば、みんな集まってくれるのではないか？
- ◎ ただ集まって話をするだけの場所であり、自身の持つ経験・知識を活かす機会でもあり、子ども・高齢者・障がい者の見守りになる場所をつくりたい。
- ◎ 高齢者なら家庭菜園等で収穫した野菜や花などを交換・販売する「野菜市」を開催したり、子を持つ親が安心して子どもを任せられる子どもを見守る体制と、訪れてくれた子どもや若者用に遊び道具やお菓子、準備しておく。
- ◎ 富岡と関連があっても誰でも楽しめるペタンクやボッチャのような軽いスポーツがあっても良いし、例えばペタンクなら、そこでフランス人と交流できるとなお良い。
- ◎ そうして色々な人たちに集ってもらえれば、高齢者が子どもたちを見守りつつ、高齢者は子どもに見守られ、子を預けた親は安心して周囲と交流をはかったり、休らぐことのできる場所になる。

改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人ひとりが、会場づくりや参加者集めを担う。 ● 障がいがあろうとなかろうと、年齢や性別が異なろうと、分け隔てなく笑顔で受け入れる。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場となる場所を確保する。備品を貸し出す。 ● 情報を地域内に提供する。 ● 「子どもと高齢者」など、これまで関わりのなかった人たちの接点を作る。 ● 懇親会、ゲームを通じて交流を増やす。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● みんなが集まる会場となる場所を提供する・整備する。 ● 公共施設を会場として提供する。備品を貸し出す。 ● 館報などの広報で情報を発信する。 ● 指導者や専門家が必要なイベントには、そうした人を呼ぶ手助けをする。
	その他	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">商店など</div> <ul style="list-style-type: none"> ● お店を寄合所として立ち寄れるようにする。

【補強意見】

取組み全般に関すること

- 新たなことに触れたい人を、経験のある人が色々な分野で後押しできると良い。
- ひとり暮らし高齢者などにとって、楽しさが集まる場所で、生きがいになって欲しい。

会場に関すること

- 会場は、城町区を例にすると城町公園、スズラン広場、リニューアルした城町会館などの地区にあるもの、特別支援学校やその他公共施設など、今すでにある建物や施設など。

私たちの 居場所づくり 2		<p>【“孤立”を見つける・未然に防ぐ】 「居場所のない人」「孤立している人」を見つけることは難しい</p> <p>▶今より地域のコミュニケーションを活発にして「居場所のない人」をすぐに見つけたり、未然に防げる地域にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 声を上げられる人ばかりではない。 「孤立」している人は、話せる相手もなく、ひっそりと過ごしている。 ⇒ 居場所づくりをする前に、誰に居場所がないか、どれほどの人たちが居場所を必要としているのかを把握できるようにしたい。 ⇒ 基本的なコミュニケーションは何よりも大切だ。それが居場所づくりの第一歩であり、なにより、孤立を未然に防ぐことにもつながる。
改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分から人と関わろうとする。 ● より多くの人に挨拶を交わす。外で会ったら誰とでも。 ● 相手への気配り、お互いを思いやる気持ちを持つ。 ● 他の人に“少しのおせっかい”を始めてみる。 ● 近所の家々の様子を意識的に見る。(雑草が生い茂っていないかなど)
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人が、互いに気楽に声掛けができるようにして行く。 ● みんなが集まる活動を増やす。 ● 隣保班内で交流の機会をみつけ、生活状況を共有しあう。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 孤立している人の情報を管理する。 ● 交流の場を提供する。 ● 地域のお店が「地域の交流の場」になる事の大切さにスポットをあてる。
	その他	<p>商店など</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お店を集会所にする。お店の人も混ざって話す。

【補強意見】

- 何にしても男性のイベント参加は少ない。男性は孤立傾向にあるかも知れない。

私たちの
居場所づくり
3

【“居場所”を知る・知らせる】

孤立している人たち側が、自分の居場所を見つけることが難しい

▶“居場所”の存在を広く伝えて、みんなが居場所を見つけやすい・調べやすい環境をつくっていく

▶同時に「どんな居場所があると良いか」の声を集める

- ⇒ 地域の人たちが顔の見える関係性を築き、孤立している人・閉じこもっている人をいち早く察知・把握することは大切だが、それは「サポートする側」からの視点での話だ。
- ⇒ 居場所をつくっている皆で、どんな居場所があるか知らせていき、孤立している人、孤立しそうになっている人たち自らが動いて、自分の居場所を探してもらうことをサポートし、もっと寄り添った支援ができるようになる。
- ⇒ そのためには、居場所をつくっている皆で、どんな居場所があるか知らせていき、自ら動く手助けをする。

改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲と会話ができる時間をつくる。 ● 誰かと話せる場所へ積極的に出かける。 ● 趣味趣向が合う仲間がいる人は、仲間同士で集まる機会を増やす。 ● 孤立しそうだと思ったら、楽しいと思える場所を探す。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 近い人へ呼びかけ、どこに会場があるのか、誰が地域に住んでいるのかを知ってもらうのと同時に、みんなのニーズを把握する。 ● 地域の集会所や道路を清掃する回数を増やして、集まる場所を知ってもらう機会、顔を合わせて話し合う機会を増やす。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場の場所等、地区について知らないことが多いので、広く周知する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ●

Ⅱ さまざまな人に寄り添った居場所づくり

さまざまな背景を持つ人たちが暮らすこの地域の「居場所づくり」について話し合う中で、「どんな人に居場所が必要なのか?」、「居場所がなくて苦しんでいるのはどんな人なのか?」と考え、意見を交わしたところ、集まった私たちは、次のような人々に対して、特に目を向けて考えていることがわかりました。

1. 高齢の人々
2. 子どもと子育て中の人々
3. 障がいを持つ人たちとその家族
4. 若者、特に単身の人々

こうした人々に対し、それぞれに寄り添った「居場所づくり」ができないか、会議の中で4つのグループに分かれて話し合い、みんなで課題と解決方法を話し合った結果、次のような提案が生まれました。

1	高齢者 <ul style="list-style-type: none">▶ 待つだけでなく、こちらから出向く居場所づくり▶ 出かけようという気にさせるコンテンツづくり
2	子ども・子育て <ul style="list-style-type: none">▶ 家での親の居場所づくり▶ 「地域で子育て」の雰囲気づくり▶ 「親子で出かけられる居場所」づくり
3	障がい者とその家族 <ul style="list-style-type: none">▶ 「障がい」について知る、周りの人たちにももっと知ってもらう & 「障がいのある人のための居場所」に関する情報を行き届かせる▶ 「障がい」に対する壁を取り払っていく
4	若者・単身 <ul style="list-style-type: none">▶ 若者の居場所は、若者が話し合ってつくる▶ 若い人同士が顔を合わせて交流する機会を増やすために、他世代がサポートする

1 高齢者

課題 1-1

「高齢者が高齢者を助ける」ような構図では、きっと続かない
外に居場所をつくっても、真に孤立した人たちは救えない

▶待つだけでなく、こちらから出向く居場所づくり

①地域一丸となり、多世代で循環を作って居場所づくりに取り組む

- ➡ どのようなサポートをするにしても、高齢者が高齢者の手助けをしたり、若い世代が若い世代の手助けをするだけでは、少子高齢化社会の中では限界があるし、いつかその流れも途絶えてしまう。
- ➡ だから、幅広い世代にサポーターとして地域づくりに参加して欲しい。若いうちから地域活動に触れてもらい、地域に慣れ親しんでもらう。そして、それをさらに次の世代に引き継いでいき、子どもからお年寄りまでの広い循環をつくりたい。

②こちらから出向いて、今いる場所を“居場所”に変える

- ➡ 誰かと顔を合わせたり、話をしているときに、“楽しく、居心地の良いところ”＝“居場所”になる。
- ➡ 真に孤立している人は、外に“居場所”をつくっても、そこに集まってもらうこと自体が難しい。ひとり暮らしの高齢者や寝たきりの方は特にそうだと思う。「来てもらう」だけでなく「出向く」サポートが必要だ。
- ➡ 「“居場所”を見つける手助け」、「来てもらえる“居場所”をつくる、そこで安心して過ごしてもらう」、「こちらから出向く」の3つのサポートをしていくことで、孤立を防ぎ、減らしたい。

改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域行事に参加し、高齢者を含め色々な人と触れ合い、地域の人を知る。 ● 自分が参加している行事に知人を誘う。 ● 途絶えた地域活動を再開できるよう、隣保班の人々に働きかける。 ● 下の世代と上の世代をつないでいく意識を持つ。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● ひとり暮らしの高齢者のもとを訪ね、話し相手になる。 ● 高齢者が高齢者を訪問するだけでは、次世代に引き継がれていかない。訪問するときには、子どもたちと一緒にいく。 ● 「子どもたちが高齢者のもとを訪問する」ハードルを下げるため、地域ぐるみでみんなを巻き込んだイベントを開いて、多世代が顔を合わせることのできる機会をつくり、徐々に顔合わせの機会を増やす。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ●
	その他	<p>街のお店の人たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の取り組みをサポートしてもらう。

課題
1-2

今ある“居場所”が活用しきれていない
参加者が少ない

▶出かけようという気にさせるコンテンツづくり

- ◎ 今ある居場所は、井戸端会議的におしゃべりできる場所。
それを他のコンテンツと組み合わせて「おしゃべり × ○○○○」などのイベントにすると、これまで来なかった人たちに来てもらえるきっかけになるのではないか。
- ◎ では、どのようなコンテンツがあれば高齢者が集まりやすいのか？
周りにいる高齢者の趣味を考えると、グラウンドゴルフ、マージャン、家庭菜園や園芸(花、野菜づくり)が挙げられる。
- ◎ 地域づくり協議会で行っている行事の中で高齢者に人気なのは、「健康マージャン」と「グラウンドゴルフ」。
こうした趣味性の高いものになると、「興味があるけど最初から本格的にはできない」と、自信が無くて参加できない人もいると思うので、“体験コーナー”をつくりたい。
本格的に取り組んでいる人たちから見ても、自らの趣味を他の人とわかち合う機会ができるのは楽しいと思う。
- ◎ 高齢者だけでなく、子どももできたら参加してもらいたい。
お菓子コーナーや子ども向け体験コーナーを用意して、どんどん受け入れたい。

改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人が、楽しい場所を見つけようとする。 ● 居場所では、一緒に楽しむことを意識する。 ● グラウンドゴルフについては、他地区の経験者に指導してもらい、気楽に集まってもらうアプローチを行う。 ● 趣味趣向が合う仲間同士で、健康増進もかねて、楽しく充実した時間を持つ。
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 井戸端会議的にただおしゃべりする場でも良いが、他の何かと組み合わせた「おしゃべり × ○○○○」などのイベントを企画する。 ● お年寄りばかりでなく、子どももできたら参加してもらおう。 ● 子ども向けお菓子コーナー、体験コーナーを用意する。 ● グラウンドゴルフで使うグラウンドのコンディションを整える。芝の手入れや除草をする。 ● 道具を用意する(マージャン、グラウンドゴルフなど)。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場を提供する、整備する。 ● グラウンドゴルフで使うグラウンドのコンディションを整える。芝の手入れや除草をする。 ● 道具を貸し出す(グラウンドゴルフなど)。 ● 地域の“居場所”のコンテンツを、居場所づくりしている地域に発信する。
	その他	

【補強意見】

- 特に男性に趣味が少ない人が多いので、男性が参加して充実できる場にしたい。
- グラウンドゴルフ発足に参加したい。
- マージャンの楽しさ、会話、脳トレ、継続させることが大事。

2 子ども・子育て

課題 2-1	<p>子育て中の親は、家の中ですら休まらない</p> <p>▶家での親の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 親も子ども、自分の家が一番安心できる場所だという人は多いだろう。 ☞ しかし、育児には時間的区切りがなく、特に小さい子がいる家庭では、休む時間が少なくなりがちだ。 ☞ 育児に疲れる人に、一番安心できる場所である自分の家で、リラックスし、休息する時間をつくってあげたい。 	
	改善 提案	個人
地域		<ul style="list-style-type: none"> ● 近所でお互いあいさつを交わし、話せる関係性をつくる。 ● 悩みを聞き、わかち合えるよう努める。 ● あいさつをする大人が恰好良い！という意識を地域に根付かせる。
行政		<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て家庭の悩みの代表と言えば、食事と掃除にかかる時間がないこと。行政から、食事メニューの提供や、手軽にできる掃除方法などを情報発信する。 ● 例えば、週1や月1で「今日のメニューはこれ！！」というような、簡単食事メニューを発信する。 ● 発信には、市報や SNS を使う。 ● 飲食店組合に呼びかけ、公民館教室などで、簡単な料理作りを教えてもらえる機会を作る・増やす。 ● 育休を活用させる。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ● 企業にできる「親と子の体験学習」を検討してもらい、開催する。

課題 2-2		地域で子育てを応援する雰囲気醸成されていない	
		<p>▶「地域で子育て」の雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 幼い子がいる家庭の人たちが、安心して暮らせる安全な地域にしたい。 ☞ 子育てには不安がつきもの。外を子連れで散歩するだけでも様々な不安がある。 ☞ 地域でサポートして、子育てをしている家庭の不安を取り除きたい。 ☞ 親が祖父母や近所の先輩ママ・パパにサポートをお願いでき、また、周囲もそれを受け入れられる環境をつくりたい。 ☞ そのためには、顔も名前も知りあえて、不安なく助け、助けてもらえる関係づくりは必要となる。 ☞ また、地域の環境美化も、子どもの安全・安心につながる。 自宅の樹木の整備、近所の外掃除など地域環境美化にできる範囲で取り組むことで、けがや事故の危険を少し下げることにつながる。 	
改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを見たら邪険にしない。あたたかい目で見守る。 ● 手助けが必要そうなときは、勇気をだして助ける。 (子どもが転んでしまったり、何かアクシデントがあったとき) ● 自宅の樹木を整備する。外の掃除をする。 	
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通ルール等、地域全体で見守る。 ● 子どもたちと親たちが安心して暮らせるよう、地区内のパトロールを日頃から行う。 ● 近所の掃除をみんなでする。 ● 親子で楽しめるイベントをどんどん開く。 伝統行事の活用や昔の遊びで、高齢者にも来てもらい、幅広い年代で「地域で子育て」に取り組む。 	
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 危険な道路・歩道を整備する(ガードレール等)。 ● 公道の整備、障害物の撤去、案内の整備 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 美容院等に Kids スペースを作る。 	

<p style="text-align: center;">課題 2-3</p>		<p>幼い子どもがいる親が、安心して出かけられる場所が少ない 親子がリラックスできる居場所が少ない</p> <p>▶「親子で出かけられる居場所」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ いつも子育てが生活の中心になっている人は、特に子どもが幼いと、大人と話をする機会が欲しい。 ☞ 出かけた先で、親が自分の子から目を話せる環境があまりない。 ☞ 親子でも、子どもだけ・親だけでも安心して出かけられる居場所をつくりたい。 ☞ その“居場所”で、子ども同士・親同士の交流が生まれると良い。 ☞ サポーターとして、学生や高齢者など様々な人に協力してもらいたい。 ☞ 来てくれた親子をサポートが見守り、サポーターも来てくれた親子に見守ってもらう。そんな居場所にしたい。
		<p>改善 提案</p>
<p style="text-align: center;">地域</p> <p>全体的なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 安心して子どもを預けられる場所を増やす。 ● 学生や高齢者等にボランティアをつのって子どもを数時間あずかるような場所をつくる。 <p>場所・会場に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公園・あいあいプラザ等の既存の集まりやすい場所を活用する。 ● 子ども会・学童をベースに、子ども同士、親同士の会を作る。 <p>高齢者と子どもの相互見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が子どもを見守るために集まりやすい場所に“居場所”をつくる。 <p>地域行事活用に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域で行われていた様々な伝統行事を再興したり活用するなどして、人と人との交流の場を作る。 		

	行政	<p>場所・会場に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 円卓会議のように、安全に子どもを見守り、親同士が交流できる場を用意する。 ● ふれあいの居場所補助事業などを拡大し、集会所の整備を助成する。 ● 会場となる場所を提供する。 <p>高齢者と子どもの相互見守り</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者施設と併設で子どもの面倒をみる施設をつくり、高齢者と子どもがふれあい、見守りあえる環境を整備する。 <p>地域行事活用に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 富岡市における歴史的な伝統行事をもっと紹介し、実施にあたって指導・助言する。(文化財保護課)
	その他	

【補強意見】

伝統行事・お祭りを活用する

- 地域の伝統行事(どんど焼きほか)を再興する。
- お祭りに出てきてもらい、親子共に仲良くする。

3 障がい者とその家族

課題 3-1

私たちは「障がい」についてよく知らない

▶「障がい」について知る、周りの人たちにももっと知ってもらおう

- ⇒ 私たちは、障がいのある人・その家族の現状を把握できていない。
- ⇒ 障がいのある人・その家族と関わったり、サポートするためには、まず「状況を知ること」が大切だ。
- ⇒ 「知る」ためには、勉強し想像し知識を得るだけでなく、「体験してみて自らの経験を得る」ことが何よりも大きい。

▶「障がいのある人のための居場所」に関する情報を行き届かせる

- ⇒ “障がいがある人やその家族のための居場所”はあるのだろうが、情報が行き届いていない。

改善 提案

個人

知る

- 障がいを身近なものと捉える。障がい者のことを良く知る。
- 相手の立場になって行動する。
- ドラマ(サイレントなど)を観て、障がい者について理解を深める。
- 手話教室に通ってみる。
- 障がいについて知る機会に積極的に参加する。ブラインド歩行、車いす等の体験会に参加したり、施設へ出向いてみる。
- 障がいについて身に着けた情報から、自分に何ができるか考える。
- 障がい者に関するマーク(車いすマークなど)を調べてみる。

知らせる

- “居場所”がどこにあるか調べる、把握する。
- SNS を駆使して情報を広める。

地域

知る

- 「ふれあいの居場所」の活動の一環で手話教室を開く。
- 障がいに関する講演を開催する。
- 近所にいる障がいを持つ人を把握して助ける。

知らせる

- SNS を駆使して情報を広める。
- 地域の広報にチラシを入れる。訪問する。
- スポーツクラブ等と障がい者が一緒に活動する場をつくる。
- 特別支援学校と地元区長会がタイアップして共同作業を行う。
- 回覧に合わせて、障がいに関するマーク(車いす、ちょうちょなど)を紹介するお知らせを配る。
全戸配布されるものに載せておくと良い。また、全戸配布されている「自主避難計画」に掲載すると、避難時にも効果的。

	<p style="text-align: center;">行政</p>	<p>知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公共施設における障がい者にとっての「壁」を検証し、結果を地域へフィードバックする。 ● 障がいに関する講演に、パラ競技のメダリストを招く。 ● 小さな声でも真剣に向き合う。 <p>知らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 市報での発信を継続し、公民館報でも定期的に発信する。 ● SNS を駆使して情報を発信する(市の LINE、インスタ)。 ● 施設や病院で、居場所があることを職員や医師から伝えるよう働きかける。 <p>全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居場所の会場として施設を開放する。 ● 福祉課、地域づくり課を中心に、地域の取組みを支援する。
	<p style="text-align: center;">その他</p>	

課題 3-2

障がいに関する「壁」がある

▶「障がい」に対する壁を取り払っていく

- ☞ 「障がい」について、重く捉えがちだし、なんだかよくわかっていない。
- ☞ 共感を持ち、共に過ごすことで“自分ごと”にする。
そのうえで助けがいるならサポートする。
- ☞ そうしてみんなが笑顔になれるよう居場所づくりを進め、「かるい気持ちでゆるく集まれる」居場所づくりが必要。

改善 提案

個人

物理的なこと

- 障害となる物を除去する。

気持ちのこと

- わからないから壁ができる。障がいについて勉強し、より理解を深める。
- 笑顔で挨拶をする。
かと言って最初から過剰になれなれしく話さない。
- 声をかける。手を振る。**後ずさりをしない。**
- 特別支援学校と地域と一緒に活動する催しに参加する。

地域

- 壁を感じずに交流できる場、一緒に過ごす時間をつくる。
- 飲食をしながら相談できるカフェを設営する。
- すべての人が笑顔で対応する。
- 特別支援学校の生徒と地域の人が、いっしょにゴミ拾いするなど、地域のことへ共に取り組める機会をつくる。
- 特別支援学校の体育館をつかって、地域のスポーツクラブといっしょにスポーツ交流する。

行政

- 「障がい」の壁を感じずにコミュニケーションをはかれる場を設定する。
- そのための準備、計画、備品の用意などを支援する。
- 施設と地域をつなぐ役割を担う。
- **情報提供する。**

その他

【補強意見】

- 同じ悩みをもった人が集まり、話し合うことができればと思う。
- 助けを求められたら協力したい。

4 若者・单身

課題 4-1

若者同士の交流が減っていて、集まれる場所も少ない

▶**若者の居場所は、若者が話し合っつくる**

- ☞ 友だちと会話をしながら勉強をする場所が少ない。
- ☞ 学生はスマホをいじる時間が増えていて直接の交流が減少している。特に帰宅部では顕著。
- ☞ そうして交流が減っているわけだが、いかに若者が集まるような魅力のあるコンテンツ・イベントをつくれればよいのか？
実際のところ、若者が何を求めているのかは、他の世代には分からない。
- ☞ 若い世代だけで自分たちが何をしたいのか、何を求めているのかを話し合っつて意見を集めれば、本当に若者が求めているものかわかる。
- ☞ そこで地域や行政には、地域づくり協議会や円卓会議に「青年の部」を用意してもらい、若者同士が話し合う手助けをして欲しい。また、そこで出た案を実現するためのサポートを、地域や行政にお願いしたい。

改善 提案

個人

- 自分が求めることを考える。
- 現状で、どんな集まれる場所があるのかを調べる。
- 自分の興味のあることについて市や地域の取組みを調べる。
- 周りと話をするきっかけをもっと作るようにする。
どうすればきっかけを作れるか考える。

地域

- 「地域づくり協議会 青年の部」をつくる。
- 地域の学生が集まって話し合い、居場所と課題を考えていく。
- 学生が話し合ったことの実現を手助けする。
- 若者が作る新たなお祭りを考える。
- 高校生が将来学びたいことにつながる活動を増やしていく。
(例えば、地域政策学科等にいきたい人は大学入試での個人のアピールポイントになる。)

行政

- 「円卓会議 青年の部」をつくる。
 - 地域の学生が集まって話し合い、居場所と課題を考えていく。
 - 学生が話し合ったことの実現を手助けする。
 - 会場となる場所を提供する。
 - 積極的に高校・中学校などと情報共有する。
- 若者が集まれる場所づくり**
- 勉強場所や集まれる場所として、公共施設を個人へ貸し出す。
今でも借りられる場所は、今よりも個人で借りやすくする。

その他

-

課題 4-2		<p>特に若い世代で人との直接の交流が減っている</p> <p>▶若い人同士が顔を合わせて交流する機会を増やすために、他世代がサポートする</p> <ul style="list-style-type: none"> ☉ 「人と交流する場所」に対する不安や抵抗があるが、一方で交流がないと救われない場面もある。 ひとり・単身の人は、何もなければ自由で気楽だが、ひとたび病気やケガなどの問題が起こったときに頼れる人がいない。 ☉ 社会人では異業種と、学生では他校との交流の場があれば、良い出会いが生まれるのではないか。
改善 提案	個人	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のイベント等で若者と話をする。機会を作るために参加をして行く。 ● 日常の中で訪問したり、会う機会にこれまでよりも積極的にあいさつを交わす。 ● 若者同士をつなげるパイプ役を進んで担う。(飲み会の主催など)
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者は次の地域の担い手となる。そのために、集える場を地域のみinnで考えていく。 ● 単身の人に地域の役員を担ってもらい、外出機会を増やし、出会いにつなげる。 ● 飲ミニケーションイベントを開く。 ● ごみ収集等のボランティア活動やお祭りなど、人と触れ合う、人の役に立てる機会を増やす。 ● 公会堂の利用をもっと使ってもらおう。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政が委嘱する様々な委員・役員等に未婚・単身を積極的に増やしていく。 ● 学校単位の関わりを授業でつくってもらおう。 ● 交流ができる場所をつくってもらおう。 ● 中高生の勉強会会場として利用できる施設を増やす。 または快適にしてもっと使ってもらおう。 ● 地区主催事業の周知広報を支援する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 店の一部を、集まれる場所として貸し出す。 ● 市内企業の対抗運動会を開催する。

Ⅲ 「居場所づくり」から見えた、これからの地域づくりに必要なこと

これまでは、私たちが話し合ってきた「地域の居場所づくり」についての課題と改善策について紹介してきました。最後に、私たちの暮らす富岡地区が、より良い地域になって欲しいという想いから生まれた、「私たちが考える“これからの地域づくり”に必要なこと」をここに記します。

今回の円卓会議のテーマは「地域の居場所づくり」ではあったものの、意見の中には、これからみんなで協力して“居場所”を含めた地域づくりを進めて行くうえで、私たちが常に心に留めなければならないことも生まれました。

「地域活動」に対する過剰な義務感・やらされ感を取り除きたい

様々な人がいて、それぞれが色々な思いを抱え、私たちとともに暮らしています。

地域活動に参加しない人は、その人なりに抱えているもの、おかれている状況によって、やむを得ず参加できないのかも知れません。いろんな人がいて、それぞれの事情があることを受け入れることが重要です。

たとえ地域づくりに参加しない人がいても、決して仲間外れにせず、「時間があるときに少しでも手伝ってみようかな」と、軽い気持ちで活動に参加できる地域にしていきたいと考えています。

課題	<p>「地域活動」と聞くと、何となくやらされ感がある どんな活動が地域で行われているのか知らない(知られていない)</p> <p>▶「地域活動」に対する過剰な義務感・やらされ感を取り除きたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 様々な活動を少し体験できる場をつくって、参加してくれた人の意見を聞く。 ☞ 聞いた意見は、その後の活動につなげて反映していき、また一緒に活動してもらうための足掛かりにする。 ☞ 参加しない人には、どうしても参加できない理由があるのかも知れない。たとえ地域づくりに参加しない人がいても、仲間外れにはしない。どんな人でも笑顔で受け入れて安心を与え、軽い気持ちで参加しやすくしていく。 ☞ その上で、いつ・どんな地域活動が行われているのかをみんなに伝わりやすくし、厳格なルールがあるならなるべくゆるくして、少しだけやってみようかなという気持ちを育てたい。 	
	改善提案	<p style="text-align: center;">個人</p> <p><u>受け入れる側</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 周りに役割を無理強いしない。 <p><u>地域で暮らす一人ひとり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分が興味のある分野があるなら、それに関連する活動を自分で調べる。
		<p style="text-align: center;">地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 興味を持った人が、地域活動を調べたり、参加しやすくなるように、趣味やカテゴリごとにまとめた活動の一覧をつくる。 ● 地域活動を、月ごとにカレンダーにまとめてわかりやすくする。 ● 地域活動に参加しない人を、地域から排斥しない。 ● 数が足りないと半強制感が発生するため、役割・役職に厳密な定数を設けない。 ● 様々な活動を少し体験できる場をつくって、参加してくれた人の意見を聞く。聞いた意見は、その後の活動につなげて反映したり、また一緒に活動してもらうための足掛かりに活かす。
		<p style="text-align: center;">行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 数が足りないと半強制感が発生するため、役割・役職に厳密な定数を設けない。 ● 様々な活動を少し体験できる場をつくって、参加してくれた人の意見を聞く。聞いた意見は、その後の活動につなげて反映したり、また一緒に活動してもらうための足掛かりに活かす。
	<p style="text-align: center;">その他</p>	

